

「令和元年度東京都・多摩市 合同総合防災訓練」に参加

令和元年度東京都・多摩市合同総合防災訓練が9月1日（日）に多摩センター駅周辺会場（多摩市立多摩中央公園、パルテノン多摩、パルテノン大通り、ほか）で実施されました。

また、その翌日である9月2日（月）には、都庁第一本庁舎の庁議室において、災害対策本部審議訓練が実施され、会議開催要領やテレビ会議システムを活用した各区市町村との連携の確認が行われました。

訓練は、「自助・共助」と「連携」をテーマに実施され、午前7時頃に多摩地域を震源とする強い地震が発生した想定で行われました。

当日は、行政機関、民間業者、地元住民等約20,000名が参加する大規模な訓練となりました。

当局は、消火栓等を活用した応急給水訓練及び水道施設の応急復旧訓練を行い、他に当局の震災対策PR展示、特殊車両展示（水質試験車・給水車）及び緊急交通路確保訓練に参加しました。多摩給水管理事務所、水質センター及び水道緊急隊の職員約40名と、東京水道サービス（株）、（株）PUC、三多摩管工事協同組合の社員約20名が参加しました。

また、小池知事が、当局の消火栓等を活用した応急給水訓練及び車両展示の視察を行いました。

【水道施設応急復旧訓練】

水道施設応急復旧訓練は、多摩給水管理事務所、水道緊急隊、東京水道サービス及び三多摩管工事協同組合が行いました。訓練では、模擬的に漏水させた水道管を、2～3名の作業員が不断水で迅速に応急修理を行いました。漏水修繕で水が止まった際には、大勢の見学者から拍手が湧き上がりました。



多摩給水管理事務所による漏水管応急復旧



水道緊急隊による漏水管応急復旧



TSSによる漏水管応急復旧



三多摩管工事協同組合による漏水管応急復旧

【消火栓等を活用した応急給水訓練】

住民による自助・共助訓練として、区市町に貸与しているスタンドパイプと仮設給水栓を使用した応急給水を想定した訓練を多摩給水管理事務所、(株)PUC の職員が行いました。この訓練には多摩市立和田中学校の生徒も参加し、仮設給水栓の組立方法を体験したほか、給水袋に充水した6ℓの水の重さを体感しました。

また、訓練中に小池知事が視察に訪れ、中嶋局長から、仮設給水栓等を区市町に貸与し、住民自らが応急給水を行える事業内容や給水袋の使用方法などの説明を行いました。



小池都知事による応急給水訓練視察



消火栓を活用した応急給水訓練

【震災対策の展示】

水道局の震災対策に関する展示を (株)PUC、東京水道サービス(株)の職員が行いました。パネルや耐震継手管模型の展示、災害時給水ステーションを多くの来場者にPRしました。



震災対策の展示 (TSS)



最寄りの災害時給水ステーションPR (PUC)

【水質試験車・給水車の展示】

濁度や pH など、全部で 46 項目の水質検査が可能な水質試験車、災害時に水の運搬を行う 3.2 t 給水車の展示を行いました。説明は水質センターの職員と緊急隊が行いました。家族連れなどの住民が実際に乗車して、興味深く説明を聞いていました。



水質試験車の展示



給水車の展示

【緊急交通路確保訓練】

災害時に交通事故等で道路が封鎖された際の対策として、事故車を道路上から除外して道路を復旧し、緊急車両の通行を行う緊急交通路確保訓練を行いました。

当局からは、災害時に資材を積んで走行する、多摩給水管理事務所の緊急車両が、復旧後の道路を走行しました。



緊急車両の走行

【小池知事による訓練講評】

訓練終了後の講評で、小池知事は、「大雨、土砂崩れ、河川の氾濫など、大規模な災害が全国で立て続けに起こっており、東京もいつ災害が起きてもおかしくない。東京 2020 大会まで 1 年を切りました。様々な事態を想定しながら、防災対策の強化に取り組み、世界一安全な都市、セーフシティ東京を目指していきたい。」と述べました。



小池都知事の訓練講評



訓練講評への参加